

第40期 決算説明資料

自 平成17年4月 1 日
至 平成18年3月31日

【会社名】 株式会社エノモト

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【コード番号】 6928

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 保雄

【問合せ先】 取締役経理部長 山崎 宏行

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

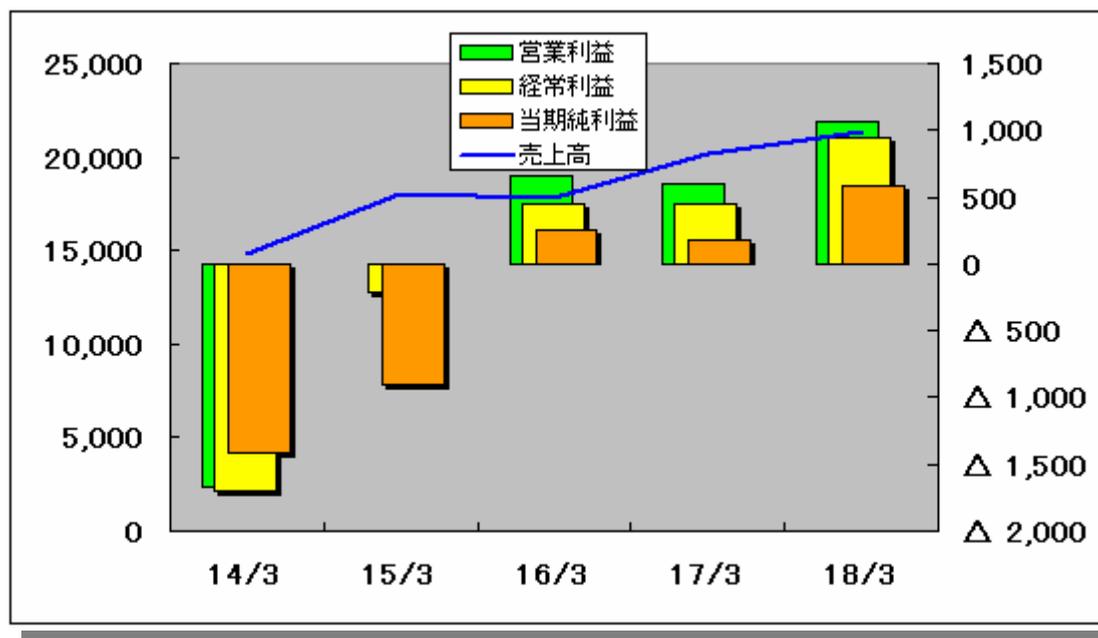
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



当期のご報告

■連結業績の推移



百万円

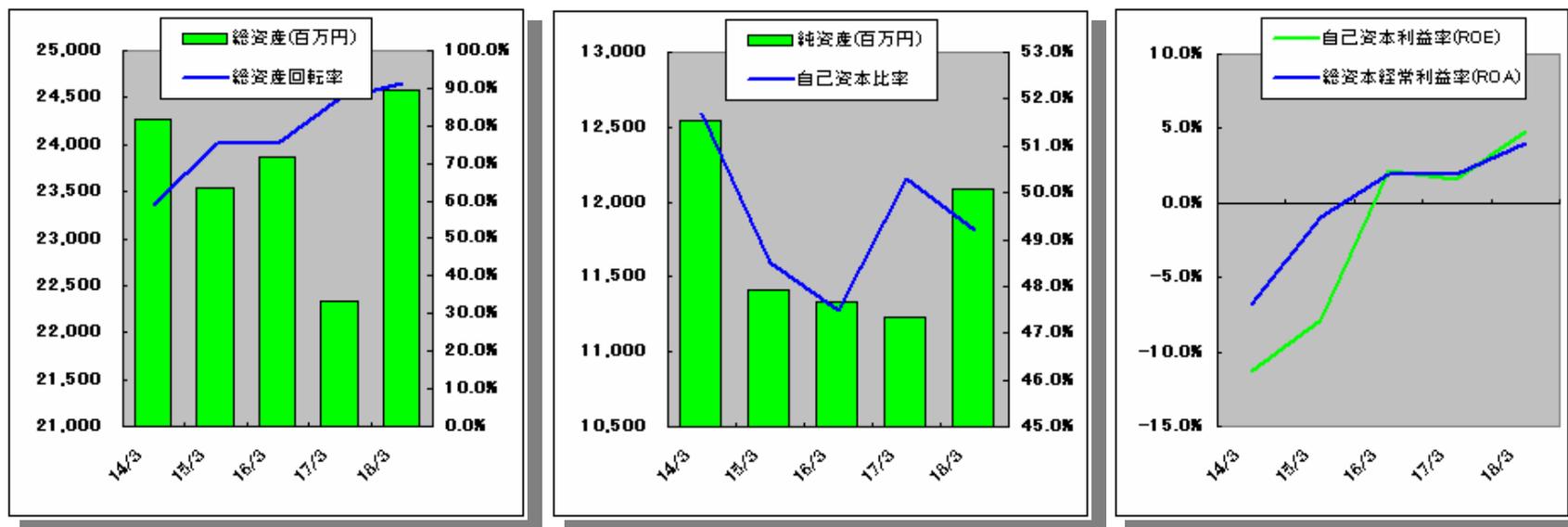
	14/ 3	15/3	16/3	17/3	18/3	前期比
売上高	14,828	18,009	17,821	20,176	21,405	6.1%増
営業利益	△1,670	1	652	600	1,061	76.7%増
営業利益率	△11.3%	0.0%	3.6%	3.0%	5.0%	2.0P増
経常利益	△ 1,702	△212	450	442	943	113.5%増
経常利益率	△11.5%	△1.2%	2.5%	2.2%	4.4%	2.2P増
当期純利益	△1,418	△907	255	182	581	218.0%増
当期純利益率	△9.6%	△5.0%	1.4%	0.9%	2.7%	1.8P増

当連結会計年度における経済環境は、原油価格の上昇や銅などの原材料価格の高騰が懸念される中、主に米国及び中国において経済成長が続いたことにより、世界経済は概ね好調に推移いたしました。国内経済におきましては、企業収益の改善を背景に、設備投資や個人消費の増加が見られ、景気は回復基調で推移いたしました。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、2004年後半からの在庫の積みあがりによる生産調整局面から脱し、昨年の夏場以降、回復の兆しを見せ、比較的順調に推移しております。

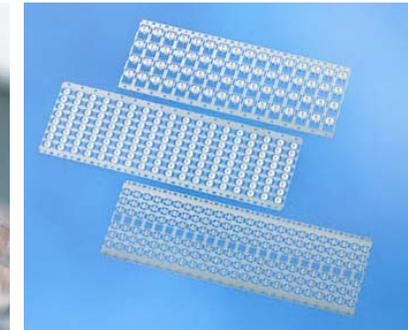
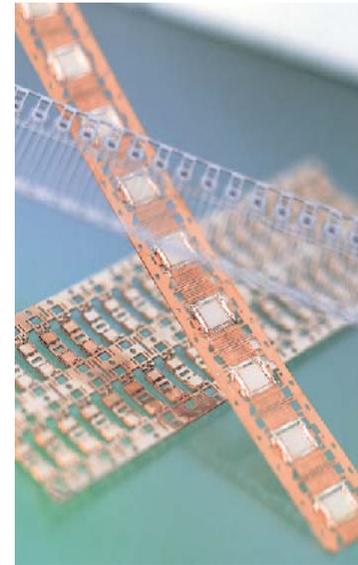
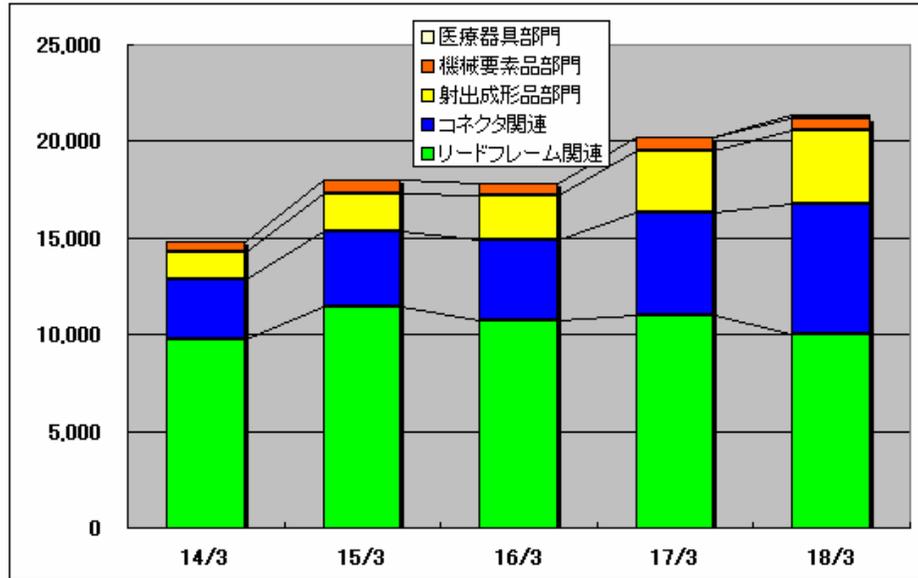
このような状況下、当社グループは不採算品目からの撤退と市場の拡大が続くLED用部品、コネクタ用部品への展開を推進するとともに、医療分野への取り組みを進めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は214億5百万円(前連結会計年度比6.1%増)、経常利益9億4千3百万円(同113.5%増)、当期純利益5億8千1百万円(同218.0%増)となりました。



	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3
総資産(百万円)	24,272	23,541	23,875	22,340	24,572
総資産回転率	59.1%	75.3%	75.2%	87.3%	91.2%
純資産(百万円)	12,546	11,408	11,332	11,226	12,088
自己資本比率	51.7%	48.5%	47.5%	50.3%	49.2%
自己資本利益率(ROE)	△11.3%	△7.9%	2.2%	1.6%	4.8%
総資本経常利益率(ROA)	△6.8%	△0.9%	1.9%	1.9%	4.0%

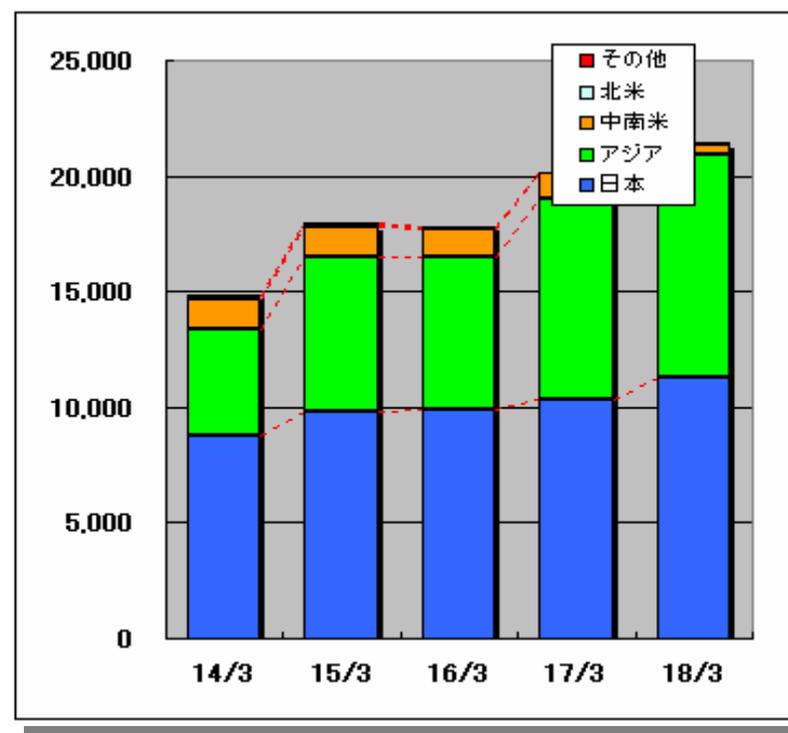
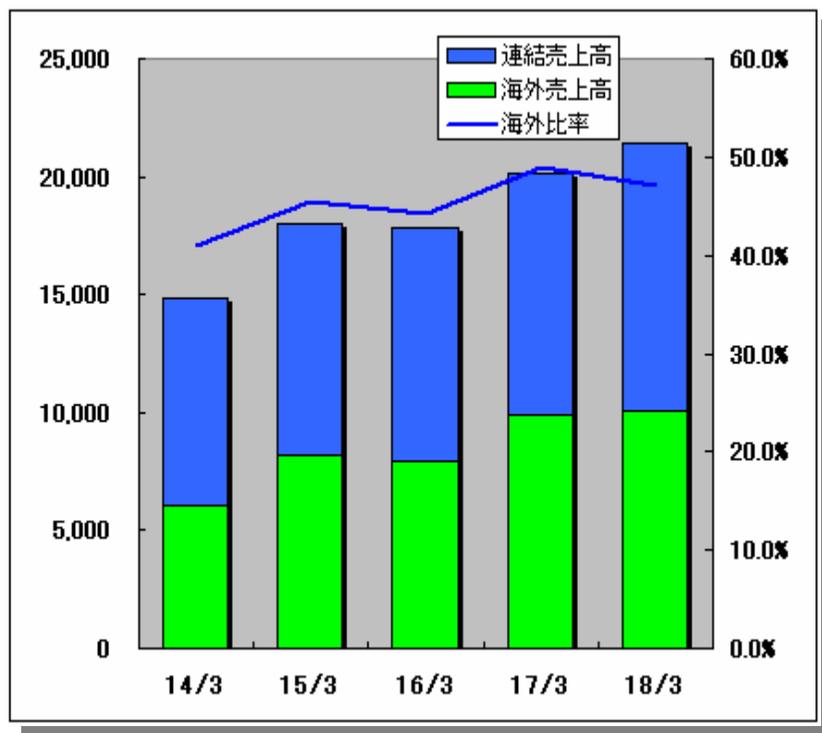
■部門別売上高



百万円

		14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	前期比
金属プレス品 部門	リードフレーム関連	9,730	11,472	10,752	11,029	10,006	9.2%減
	コネクタ関連	3,125	3,887	4,098	5,325	6,710	26.0%増
	計	12,856	15,360	14,850	16,354	16,717	2.2%増
射出成形品部門		1,381	1,961	2,361	3,120	3,817	22.3%増
機械要素品部門		590	687	609	700	629	10.1%減
医療器具部門						241	
合計		14,828	18,009	17,821	20,176	21,405	6.1%増

■ 地域別売上高



	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3
連結売上高	14,828	18,009	17,821	20,176	21,405
海外売上高	6,078	8,202	7,900	9,868	10,091
海外比率	40.9%	45.5%	44.3%	48.9%	47.1%

百万円

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3
日本	8,750	9,806	9,921	10,307	11,314
アジア	4,617	6,712	6,591	8,687	9,581
中南米	1,260	1,310	1,196	1,128	469
北米	14	36	37	20	36
その他	185	143	74	32	3

○金属プレス品部門

当部門は、半導体用リードフレーム及びコネクタ用部品が主なものであります。市場における価格競争の激化により、不採算品目となりました一部のトランジスタ用リードフレームから撤退を行い、携帯電話の高機能化により市場の拡大しているコネクタ用部品の拡販に努めて参りました。その結果、半導体用リードフレームの売上高は100億6百万円(前連結会計年度比9.2%減)、コネクタ用部品の売上高は67億1千万円(同26.0%増)となり、合計で167億1千7万円(同2.2%増)となりました。

○射出成形品部門

当部門は、LED用部品及びコネクタ用部品が主なものであります。LED用部品は、車載向け・遊戯向けの受注が拡大基調で続いており、コネクタ用部品につきましては、携帯電話向けの狭ピッチコネクタの受注が大幅に増加いたしました。その結果、売上高は38億1千7百万円(同22.3%増)となりました。

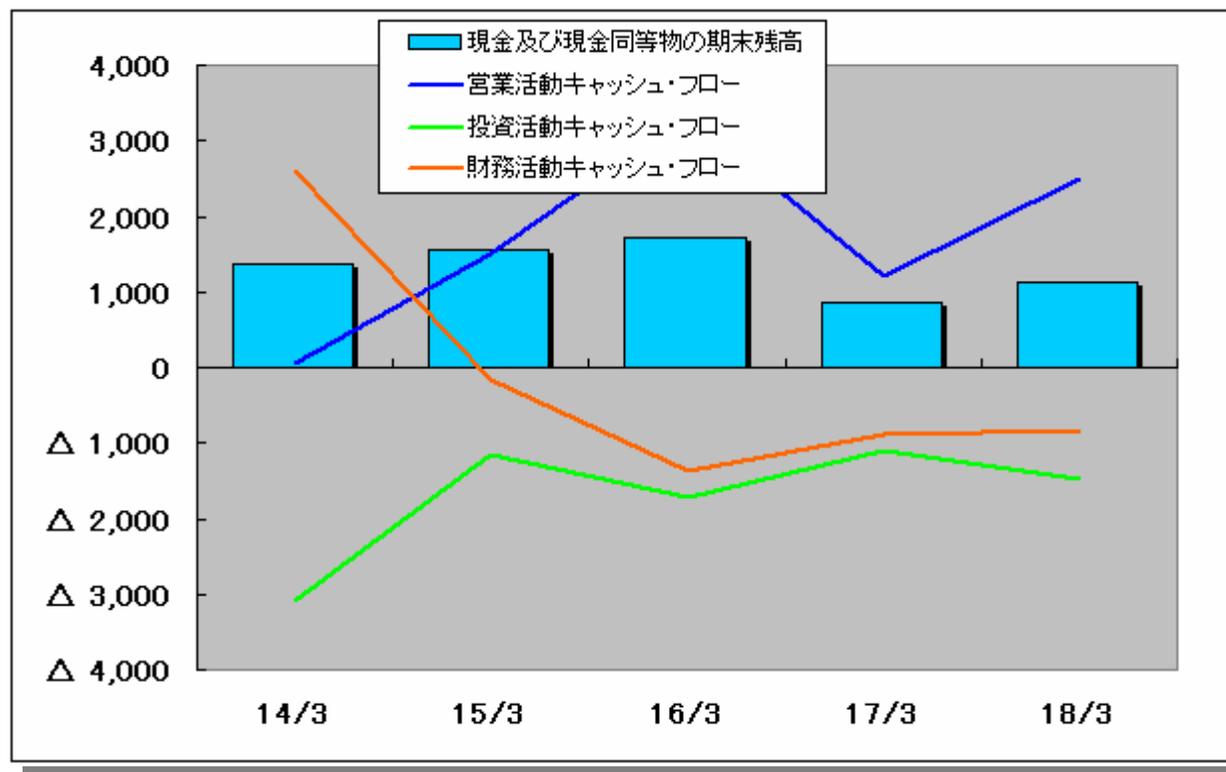
○機械要素品部門

当部門は、当社の開発品であるガイドマックスが主なものであります。半導体製造装置向けの需要が低水準で推移いたしました。その結果、売上高は6億2千9百万円(同10.1%減)となりました。

○医療器具部門

当部門は、当期より新たに加わった部門であります。当社と客先との共同開発品であります。この部門の売上高は2億4千1百万円となりました。

■ キャッシュ・フロー



百万円

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	53	1,516	3,325	1,207	2,490	1,283
投資活動によるキャッシュ・フロー	Δ 3,075	Δ 1,157	Δ 1,705	Δ 1,114	Δ 1,464	Δ 349
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,609	Δ 150	Δ 1,374	Δ 899	Δ 835	63
現金及び現金同等物の期末残高	1,378	1,568	1,720	872	1,132	260

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ2億6千万円増加し、当連結会計年度末には11億3千2百万円となりました。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は24億9千万円(前年同期比106.3%増)となりました。これは税金等調整前当期純利益8億6千3百万円、減価償却費17億4千6百万円等による資金の増加によるものであります。

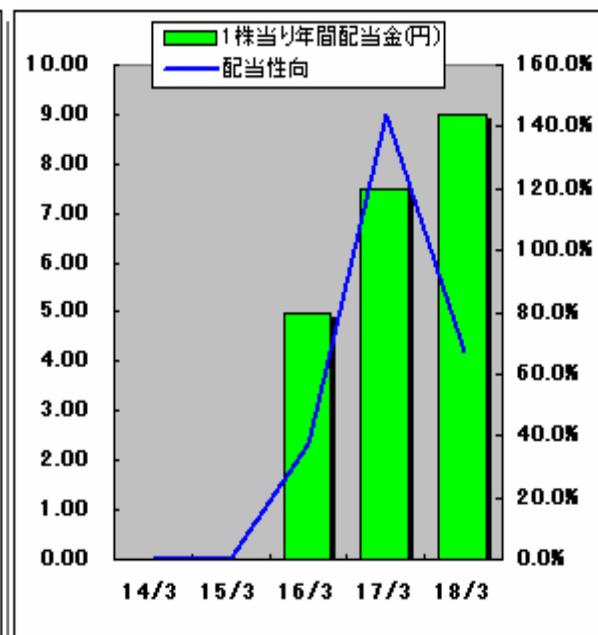
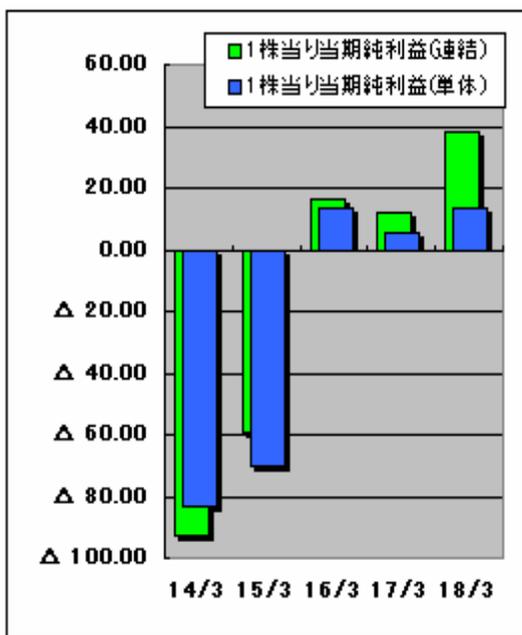
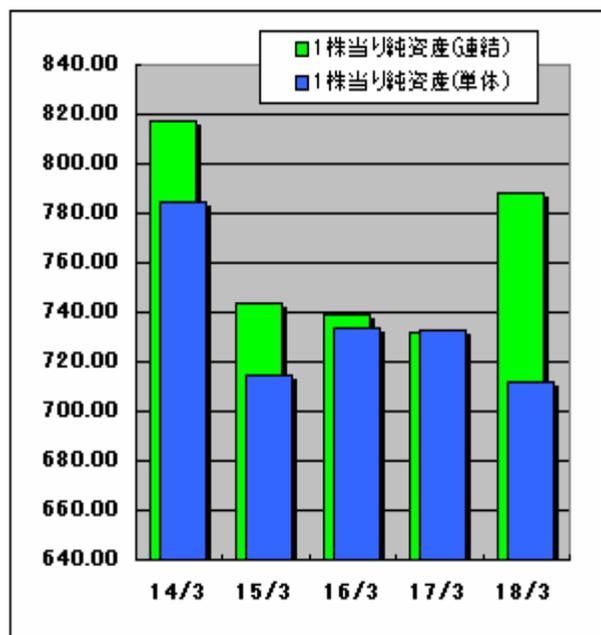
○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は14億6千4百万円(同31.3%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得16億5千1百万円及び有形固定資産の売却による収入3億1千9百万円によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は8億3千5百万円(同7.1%減)となりました。これは主に短期借入金の純減少額2億6千4百万円、長期借入金の純減少額2億7千4百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出1億7千3百万円及び配当金の支払1億2千2百万円によるものであります。

■ 1株当り指数



百万円

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3
1株当り純資産(連結)	817.53	743.45	738.68	731.81	788.07
1株当り純資産(単体)	784.18	714.32	733.43	732.77	711.52
1株当り当期純利益(連結)	△ 92.40	△ 59.15	16.65	11.92	37.90
1株当り当期純利益(単体)	△ 83.31	△ 69.84	13.54	5.20	13.32

単体

1株当り年間配当金(円)	0.00	0.00	5.00	7.50	9.00
配当性向	0.0%	0.0%	36.9%	143.7%	67.5%

○利益配分に関する基本方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、電子部品業界における技術革新に対応するためタイムリーな製品開発に努め、国内はもとより海外生産拠点を拡充することにより、経営基盤の強化を図るとともに配当につきましても安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

この基本方針に基づき、普通配当5円とし、先の中間配当金と合わせて、年9円とさせていただきたく存じます。

次期の見通し

■社会環境の変化と当社グループの展望

近年、地球規模での環境問題が大きな課題となるなかで、LEDが新たな光源として注目を集めております。当社グループはこのLEDの製造に関する技術を省エネルギー技術の一つと捉えております。社会的に重要不可欠なものであり、将来にわたり大きく発展成長させ、社会貢献を果たして参りたいと考えております。

また、国内外を問わず、携帯電話の高性能化、多機能化が進んでおります。そのような状況の中で使用されるコネクタは、当然のごとく小型化が要求され、狭ピッチ化への傾向が進んでおります。当社グループは、更なる微細加工、インサートモールド技術の展開により市場ニーズに応じて参ります。

昨年12月に医療制度改革大綱で、治療重点の医療から疾病予防を重視した保健医療体系へ転換を図る旨が示されました。当社グループにおいては、客先と共同で、この時流に合致した血液検査キットを昨年より商品化しております。また、市場での評価を受けている段階ですが、今後の事業の柱の一つとして、育てて参りたいと考えております。

■次期の見通し

今後の見通しといたしましては、米国経済が個人消費、設備投資の減速により調整局面に入る可能性はあるものの、中国経済の拡大に伴い、世界経済は比較的順調に推移するものと思われませんが、原油価格や銅などの原材料価格の上昇傾向が企業収益に与える影響は懸念されます。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、IT部門の生産調整も終了し、回復基調にあることから、薄型テレビ等のデジタル家電市場の成長、拡大が予想され、自動車向け・携帯電話向けの需要も増加基調で推移するものと思われれます。

このような環境下、当社グループは中長期的経営戦略の一環として、将来のユーザーニーズ及び地域的需要に対応すべく、最適地生産体制の構築を進め、市場競争力の強化に努めて参ります。国内におきましては、更なる技術力の向上、短納期化を図り、高付加価値製品への転換を進めるとともに、海外生産拠点におきましては、高品質化、低コスト化を推進し、収益の拡大に努めて参る所存であります。

次期の業績予想につきましては、先行きの景況感是不透明な状況ではありますが、

中間期におきましては、

売上高	107億6千円(前期比5.8%増)
営業利益	6億1千万円(前期比34.7%増)
経常利益	5億2千万円(前期比35.6%増)
中間純利益	4億1千万円(前期比98.1%増)

を見込んでおります。

また、通期におきましては、

売上高	225億円(前期比5.1%増)
営業利益	13億3千万円(前期比25.3%増)
経常利益	11億4千万円(前期比20.8%増)
当期純利益	7億7千万円(前期比32.4%増)

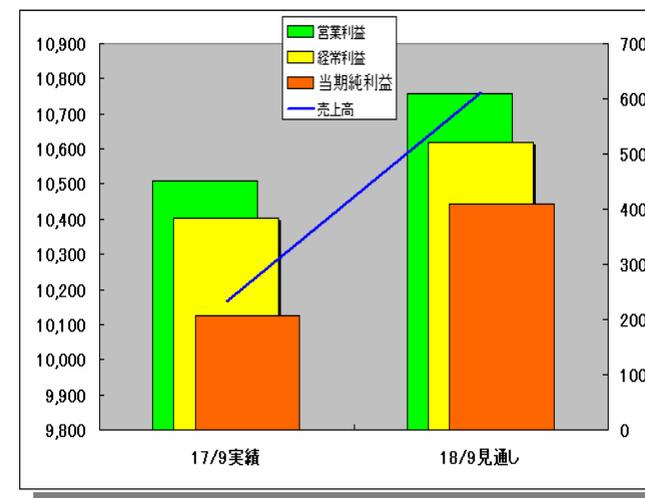
を見込んでおります。

■ 連結業績予想

● 中間期

百万円

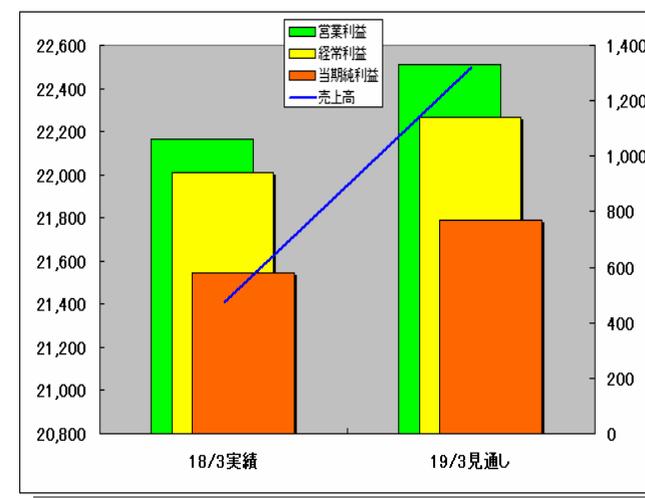
	17/9実績	18/9見通し	前期比
売上高	10,167	10,760	5.8%増
営業利益	452	610	34.7%増
営業利益率	4.5%	5.7%	1.2P増
経常利益	383	520	35.6%増
経常利益率	3.8%	4.8%	1.1P増
当期純利益	206	410	98.1%増
当期純利益率	2.0%	3.8%	1.8P増



● 通期

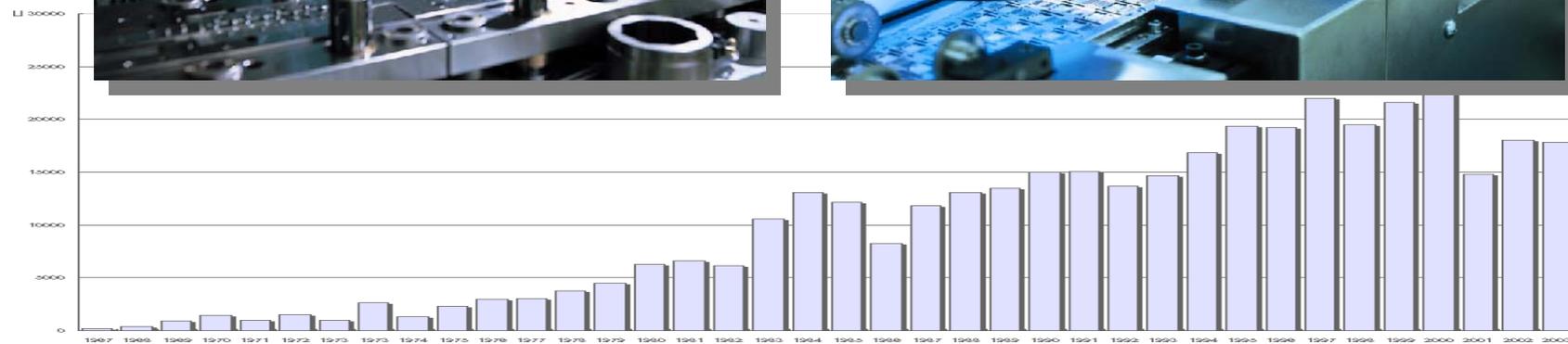
百万円

	18/3実績	19/3見通し	前期比
売上高	21,405	22,500	5.1%増
営業利益	1,061	1,330	25.3%増
営業利益率	5.0%	5.9%	1.0P増
経常利益	943	1,140	20.8%増
経常利益率	4.4%	5.1%	0.7P増
当期純利益	581	770	32.4%増
当期純利益率	2.7%	3.4%	0.7P増



経営戦略

当社グループは市場と顧客の情報を迅速かつ的確に把握し、顧客ニーズに対し付加価値の高い製品や情報の提供に努め、相互に利益を享受することを通じて、信頼関係を深め、将来にわたり安定的な成長と収益基盤の確立を目指しております。



①グローバル供給体制の確立

近年、電子部品業界は製品の適地生産・適地供給が強く求められており、そのニーズに対応するため、品質やサービスのレベルを向上させながら、調達・生産・販売の最適化を図るべく、グループ全体での分業・供給体制の強化を進めて参ります。

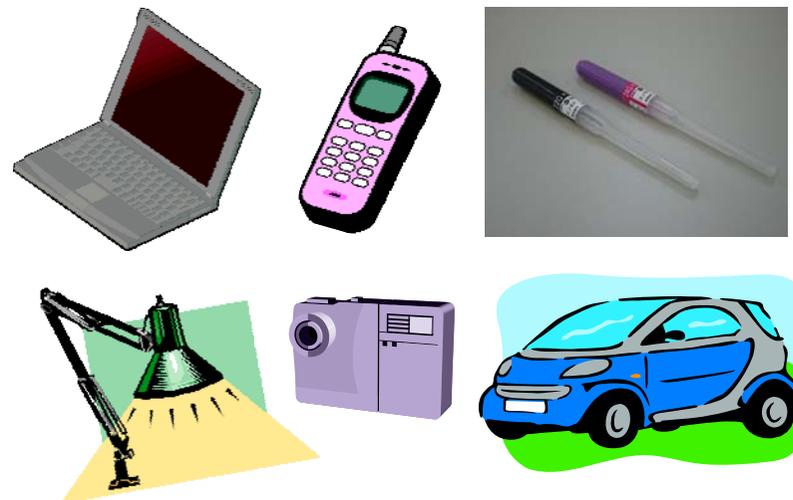


②事業基盤の確立

国際競争が激化に伴い製品価格の低下が続く中、当社は高付加価値品への転換を図るべく、技術力の強化を図るとともに、市場ニーズのあった積極的な営業展開を進めて参ります。

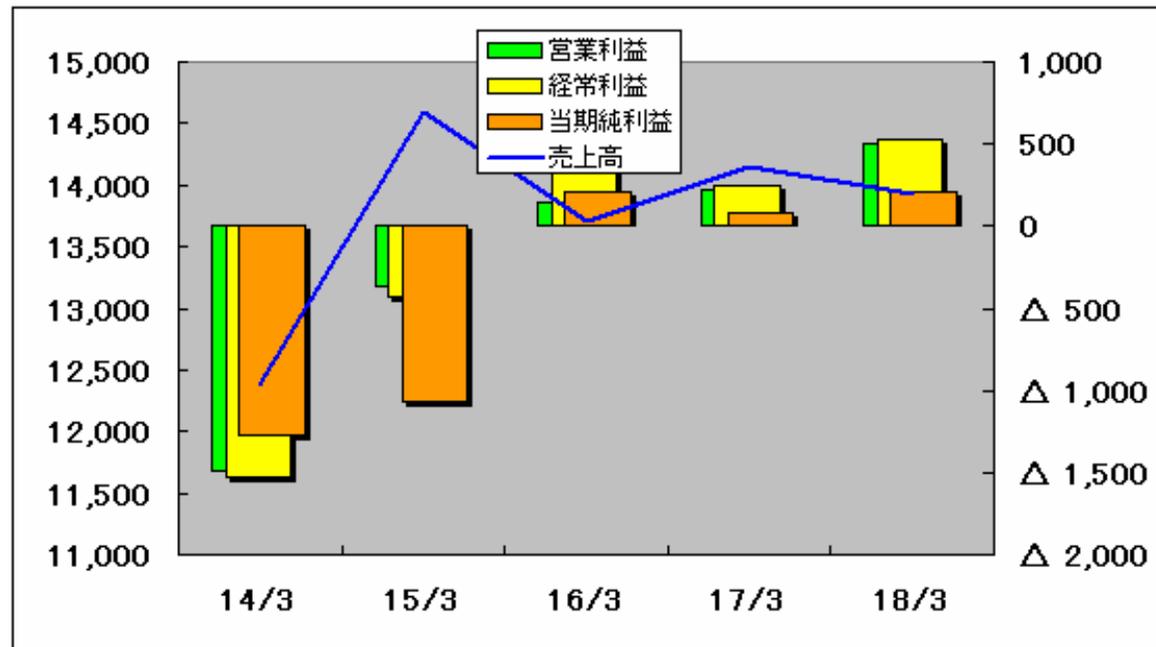
現在、培ってきた微細加工技術・インサートモールド技術を基に、次世代の光源として注目をあびているLED、電子機器の小型化に伴い需要の高まっている狭ピッチコネクタへの積極的展開を進めております。

また、新規分野として、医療関連製品への取り組みも進めており、今後拡大を図って参ります。



補足資料

■単体の業績推移



百万円

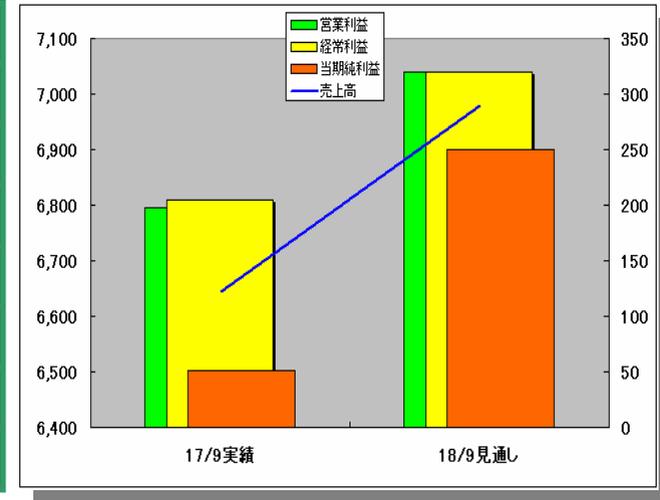
	14/ 3	15/ 3	16/ 3	17/ 3	18/ 3	前期比
売上高	12,371	14,584	13,701	14,152	13,931	1.6%減
営業利益	△1,485	△360	148	218	57	132.5%増
営業利益率	△12.0%	△2.5%	1.1%	1.5%	3.6%	2.1P増
経常利益	△1,524	△433	339	244	523	114.4%増
経常利益率	△12.3%	△3.0%	2.5%	1.7%	3.8%	2.1P増
当期純利益	△1,278	△1,071	207	80	204	155.5%増
当期純利益率	△10.3%	△7.3%	1.5%	0.6%	1.5%	0.9P増

■単体の業績予想

●中間期

百万円

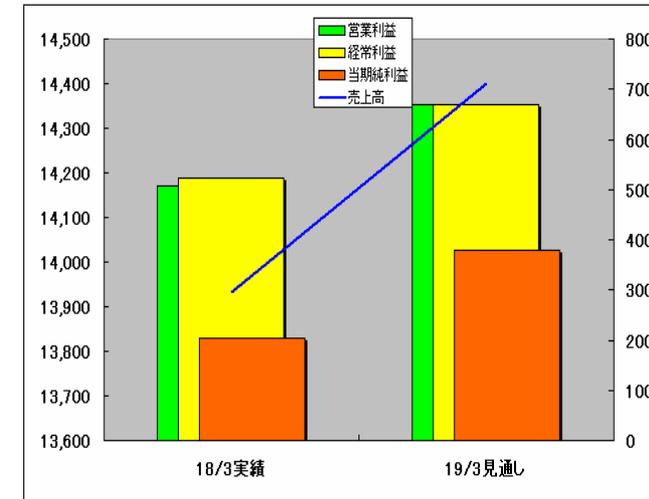
	17/ 9実績	18/ 9見通し	前期比
売上高	6,644	6,980	5.1%増
営業利益	198	320	61.2%増
営業利益率	3.0%	4.6%	1.6P増
経常利益	205	320	55.8%増
経常利益率	3.1%	4.6%	1.5P増
当期純利益	51	250	387.7増
当期純利益率	0.8%	3.6%	2.8%増

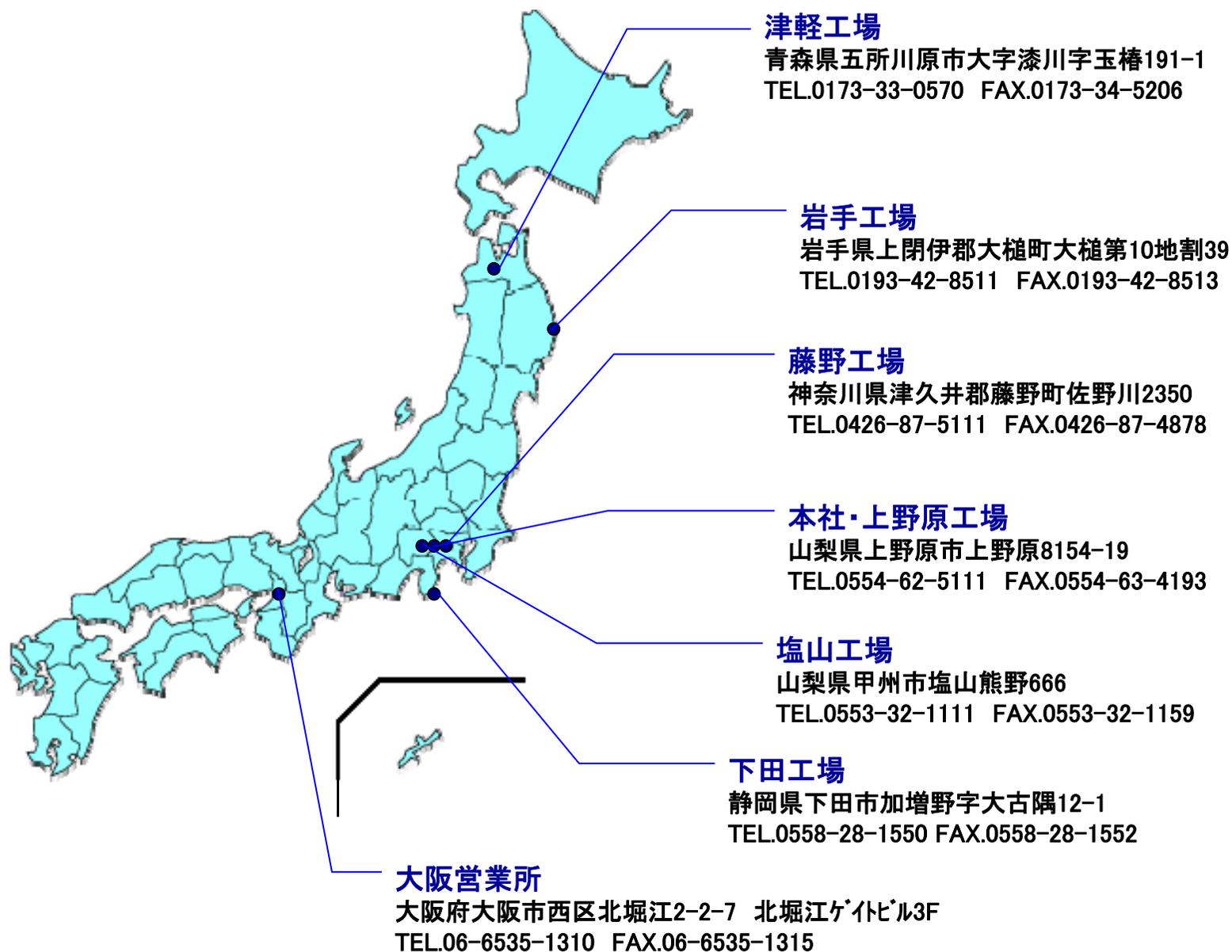


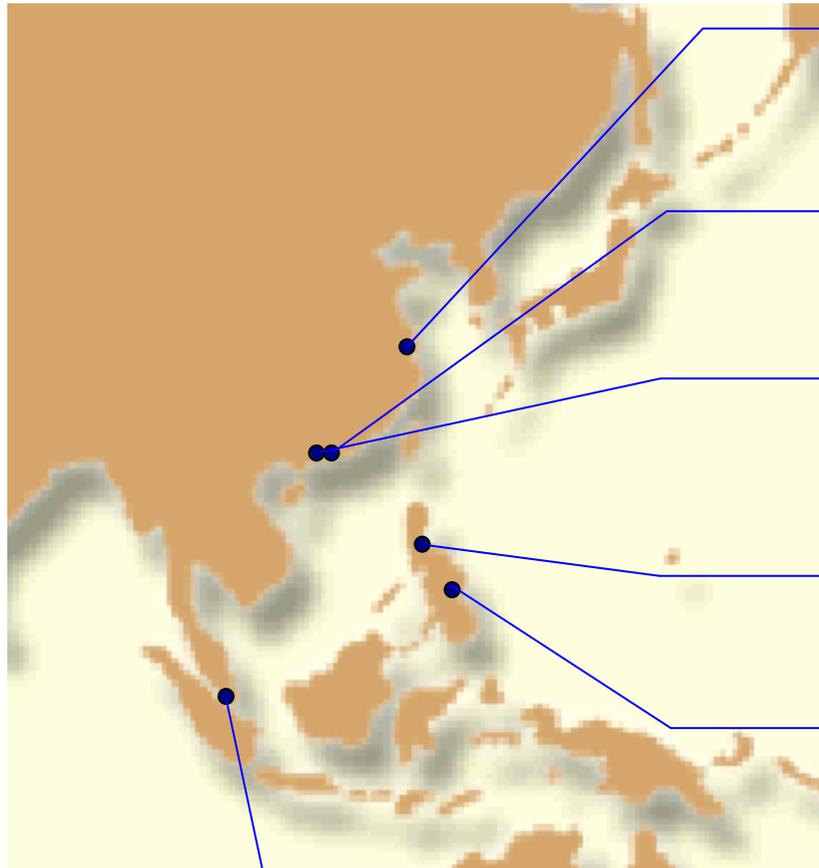
●通 期

百万円

	18/ 3実績	19/ 3見通し	前期比
売上高	13,931	14,400	3.4%増
営業利益	507	670	32.1%増
営業利益率	3.6%	4.6%	1.0P増
経常利益	523	670	28.0%増
経常利益率	3.8%	4.6%	0.8P増
当期純利益	204	380	85.9%増
当期純利益率	1.5%	2.6%	1.1P増







ENOMOTO WUXI Co.,Ltd.

江蘇省無錫市無錫国家高新技术産業開發区96号-C
TEL.+86-510-5345222 FAX.+86-510-5344008

ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd

香港九龍梳士巴利道3号星光行1820室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.

廣東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-533-5111 FAX.+86-760-533-5113

ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.

PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

**ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING INC.
CEBU OPERATIONS**

Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington
Road, Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.

30Loyang Drive,Singapore 508945
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。